

01 ホシノマチ団地 (株式会社みんなのまちづくり)

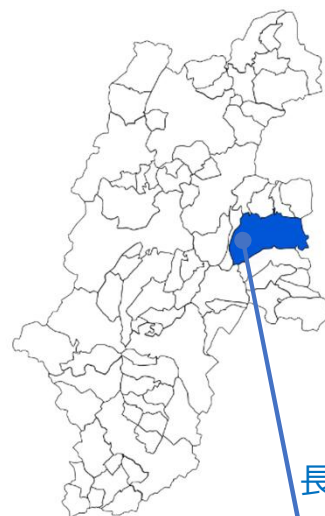
ホシノマチ団地（株式会社みんなのまちづくり）

ホシノマチ団地について

長野県佐久市臼田地区に位置する「ホシノマチ団地」は、5年以上新規入居者がおらず空室が生じていた、1996年に建設の市営住宅の一部をリノベーションし、移住者専用の集合住宅として2021年4月にオープン。地方自治体や地域企業をはじめとした多様な主体の共創により、遊休の市営団地を移住者のみで満室に。「移住者が移住者を呼ぶ仕組み」をテーマとし、空き家問題の解決にとどまらず、入居後の居住者や地域住民の活躍の場を形成し、地域住民の交流を活発化することで、「仕事創出」「人材育成」「健康増進」「移住推進」を通し、関係人口の増加に寄与している。

■ 団地概要

団地名	ホシノマチ団地
所在地	長野県佐久市
入居開始時期	2021年4月（1996年市営住宅建設）
開発主体	佐久市
団地規模	約0.6ha・22戸
人口・世帯数	約49人・約18世帯（令和8年4月時点）
高齢化率	約8.2%（令和8年4月時点）
主な住宅種別	公的賃貸
主な用途地域	第一種住居地域
主な交通手段	徒歩（団地から最寄り駅（臼田駅）まで、7分）
団地再生に関する計画（予定含む）	「佐久市生涯活躍のまち構想」（平成28年10月佐久市）



長野県佐久市



【ホシノマチオフィス】
団地住民であれば誰でも使用可能なシェアオフィス（wi-fiやプリンター等完備）



ホシノマチ団地（株式会社みんなのまちづくり）

活動の背景や目的

ホシノマチ団地のプロジェクトが中止になるかもしれないという状況で、1か月のプロボノプログラムとしてスタートしたのがきっかけ。本来の期間後も継続して関わっていただき、プロジェクトの中止の危機を乗り越えた後も2週間に1回のミーティングを継続。法人化してから実際にプルーン畑を借り、プルーンの販売も初めて、今に至っています。

取組概要

好きなことを実践する人（熱量）が活動することで、周りを巻き込み（風）、更にその輪が広がるというサイクロン（台風）のような地域の風（価値）を生み出すといったホシノマチサイクロンを生み出すチームとなるための活動をしています。

立ち上げ当初はホシノマチ団地の活動支援でしたが、日本ではじめて栽培がスタートしたプルーンのおいしさに魅せられて、プルーンを栽培や販売を通じた活動をスタートしました。



活動団体の概要

【団体名】：一般社団法人チームホシノマチ

【設立日】：活動開始2021年5月、法人登記2023年5月

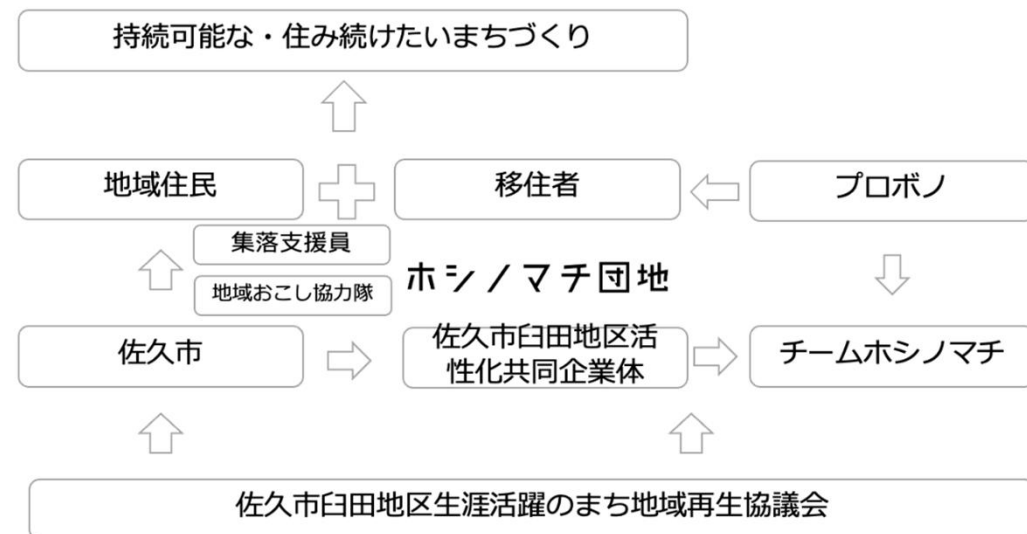
【活動内容】：

- ・プルーン栽培（臼田小学校裏）
- ・プルーン販売
- ・プルーンのPR

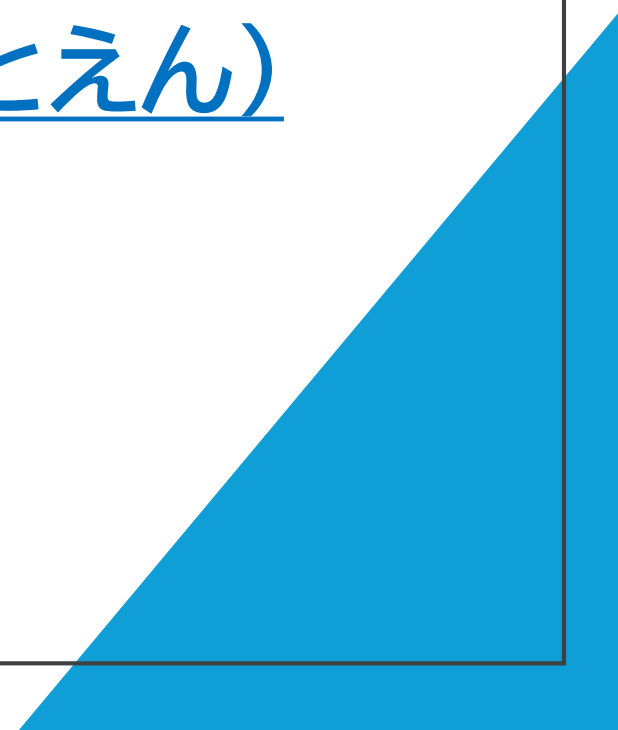
【HP】：<https://team.hoshinomachi.jp/>



活動の体制



02 コモンシティ星田
(コモンシティ星田自治会・ひとえん)



コモンシティ星田（コモンシティ星田自治会・ひとえん）

コモンシティ星田について

大阪府主催のコンペ形式によるまちづくりプロジェクトにより開発されたニュータウン。戸建住宅や集合住宅等、多世代のニーズに対応した多様な住宅がゾーン毎に整備されている。住宅地の街並みは傾斜を活かしており、幹線道路から住戸が接道する細街路の段階的な道路計画や、数住戸毎に設置された広場により緑豊かな住環境が形成。他の多くの団地と同様、少子高齢化の進行を背景に、コミュニティ活動の低下や、買い物・移動など日常生活に必要なサービス機能の維持が課題となっている。

■ 団地概要

団地名	コモンシティ星田
所在地	大阪府交野市
開発・入居開始時期	1991年
開発主体	大阪府住宅供給公社・積水ハウス(株)
団地規模	約25.6ha・840戸
人口・世帯数	約2,148人・836世帯（令和2年国勢調査）
高齢化率	約27%（令和2年国勢調査）
主な住宅種別	戸建（41%）・中高層分譲住宅（59%）
主な用途地域	第1種低層住居専用地域 近隣商業地域 第2種中高層住居専用地域
主な交通手段	コミュニティバス（団地中心部から最寄り駅（JR学園都市線星田駅）まで、約10分）
団地再生に関する計画（予定含む）	商業施設の一部での居場所(まちのリビング)づくり



コモンシティ星田（コモンシティ星田自治会・ひとえん）

活動の背景や目的

開発者から、地域の生活拠点である商業施設の一部(284㎡)を地域活動のために活用するのであれば無償貸与するという提案があった。開発者の社会貢献活動と地域の活性化ニーズが合致。地域のポテンシャル・課題を踏まえ、施設を活用し世代をこえて人が集い、交流できるまちの居場所（リビングのような場所）づくりをめざす。

取組概要

業務内容/時期	R7.6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R8.1月	2月
1 アンケート調査の実施	アンケート企画・設計	配布・回収	集計・分析、概要版の作成						
2 検討委員会の開催（4回）	6/27第1回	作業部会の開催	8/29第2回				12/4第3回	1/29第4回	
3 事例調査・視察			事例調査、視察先調整			11/26視察			
4 地域内潜在的利用者把握、意向ヒアリング				意向ヒアリング実施					
5 イベントの実施(活用試行)	7/21~7/25 子育てサロン	7/26 セミナー		企画・調整・準備		11/7~/16 星田ふれフェス 10days			
6 活用計画案の検討・作成						案の作成、検討、整理			
7 シンポジウムの開催						企画・調整・準備		2/14シンポジウム	

【活動写真等】



これまでの活動団体の概要

【団体名】コモンシティ星田ふれあいプラザ活用検討委員会
 【設立日】2025年6月 【解散】2026年3月

コモンシティ星田自治会

【地域の課題】

- ①自治会活動の希薄
- ②将来的な生活利便性(交通、買い物等)に不安
- ③地域の担い手不足

諮問



答申

活用検討委員会

- 【委員】12名
 【オブザーバー】4団体
 【主たる業務】
- ①活用方法、組織の検討
 - ②収支計画
 - ③事例研究

これからの活動団体の概要

【団体名】ひとえん（NPO設立準備委員会）
 【設立目標】2027年3月 【構成】自治会員等の有志メンバー
 【目的】運営主体として施設を活用、3年間の試行後に評価
 【自治会とひとえんの関わり】

コモンシティ星田自治会

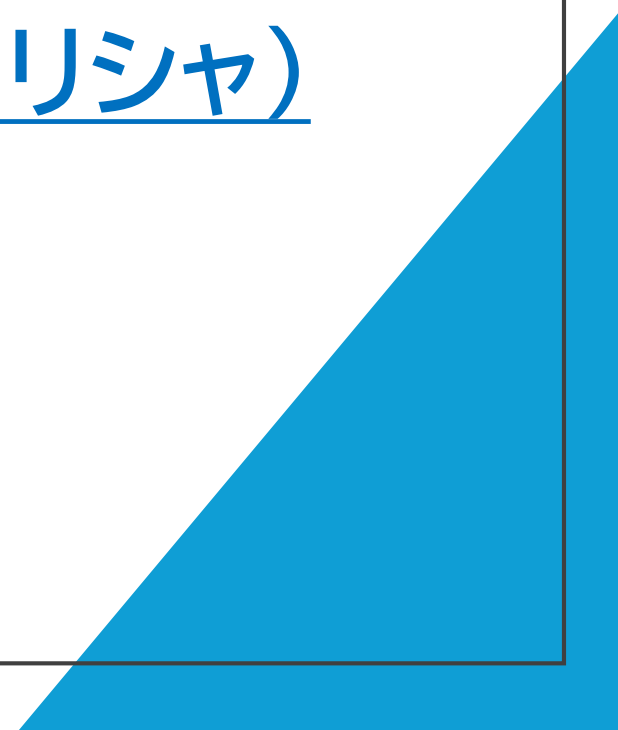
- ①運営資金の補助
- ②広報活動の支援
- ③運営の監視、評価



ひとえん（NPO準備委員会）

- ①NPO法人の設立
- ②実質的な運営と成果
- ③自治会への活動報告

03 多摩ニュータウン (一般社団法人ニューマチツクリシヤ)



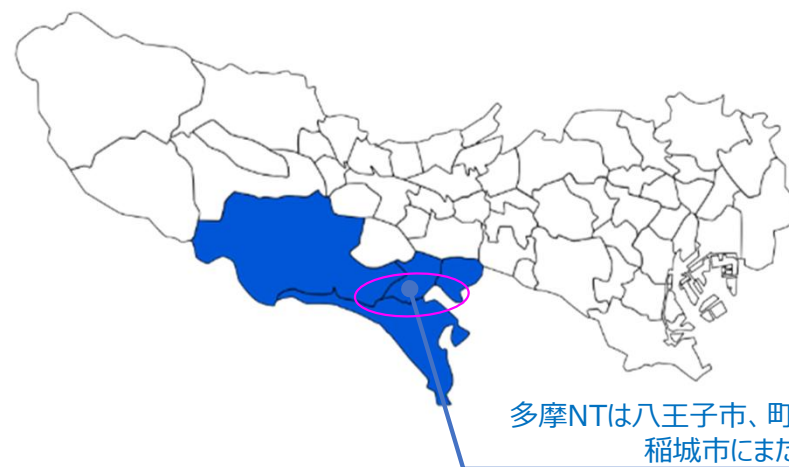
多摩ニュータウン（一般社団法人ニューマチヅクリシャ）

多摩ニュータウンについて

八王子、町田、多摩及び稲城の4市にわたる総面積2,853ha、東西14km、南北2～3kmのニュータウン。都心の急激な人口増大に伴う深刻な住宅難を解消することを目的に建設され、1971年に入居が開始された。丘陵の地形を生かしたみどり豊かで自然が調和した住環境をはじめ、商業、教育、文化など多様な施設が立地する多摩地域における複合拠点となっている。初期入居地区を中心に高齢化と少子化、住宅や施設の高経年化などの問題が顕在化してきており、新たな暮らしの場への再生への取組を進めている。

■ 団地概要

団地名	多摩ニュータウン
所在地	東京都八王子市、町田市、多摩市、稲城市
開発・入居開始時期	1965年都市計画決定・1971年入居
開発主体	複数主体（都、都住宅供給公社、都市機構）
団地規模	約2,853ha・約22,600戸
人口・世帯数	218,772人・105,643世帯 （令和7年10月1日時点）
高齢化率	約28.2%（令和7年10月1日時点）
主な住宅種別	戸建（21%）、公的賃貸（18%）、 民間賃貸（26%）、共同分譲（32%）
主な用途地域	第一種中高層住居専用地域
主な交通手段	鉄道、路線バス
団地再生に関する計画 （予定含む）	「多摩ニュータウンの新たな再生方針」 （令和7年4月東京都） など



多摩ニュータウン（一般社団法人ニューマチヅクリシャ）

活動の背景や目的

都市に暮らす人々がより多様な未来を想像できるまちをつくることを目指して一般社団法人を設立。主に多摩ニュータウンの多摩市域を拠点に活動。まちのインフラや地域に根差した文化を起点に、食の研究家、アーティスト、建築家など多様な分野のメンバーと協働し、それぞれの専門性を活かした実践を展開。

団地や公共空間を一体的に活用しながら、表現や交流の場づくり・仕組みづくりに取り組んでいる。

取組概要

・多摩ランタンフェスティバルの企画運営

夜暗いニュータウンを明るく灯し、散歩しながら新たな風景や魅力を発見する機会

・「たまのニューテンポ」の企画運営

遊休不動産に着目し、その場所の魅力や価値向上のために美術家やクリエイターの作品展示などを実施するプロジェクト

・商店街店舗の事業承継による活動拠点の整備

食と表現が交わる場をコンセプトとし、人や活動が交わりつなげる場の創出



活動団体の概要

【団体名】：一般社団法人ニューマチヅクリシャ

【設立日】：2021年

【活動内容】：

- ・団地や公共空間を活用した実践を通じた価値や魅力の発信
- ・生活や文化活動の調査、次世代への継承に向けた検討と実践
- ・人が集まり文化が生まれる場や機会の企画運営

【HP】：<https://www.newmachi.org>

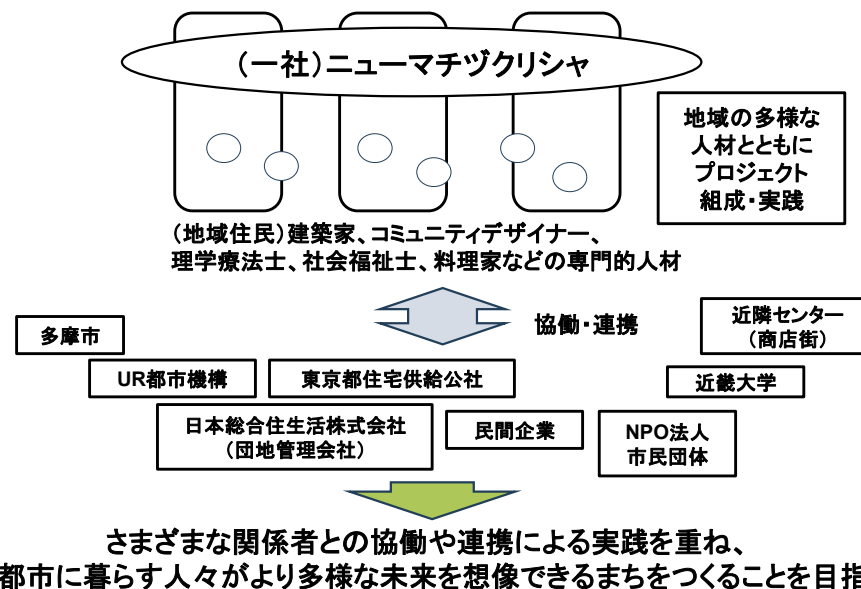


拠点：飲食型複合施設
Meet Eat Culture オチアウ

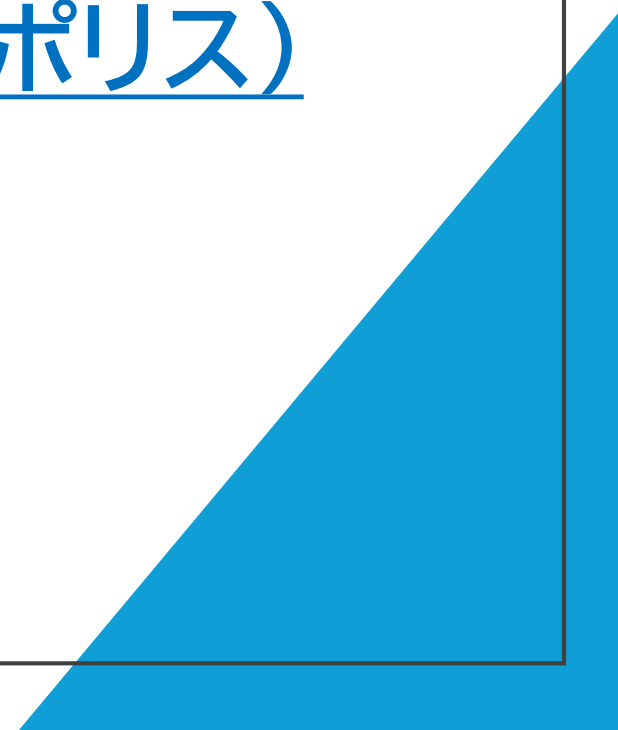


団体HP

活動の体制



04 横浜上郷ネオポリス (一般社団法人横浜上郷ネオポリス)



横浜上郷ネオポリス（一般社団法人横浜上郷ネオポリス）

横浜上郷ネオポリスについて

神奈川県横浜市栄区に位置する上郷ネオポリスは、首都圏近郊の住環境が整ったベッドタウンというコンセプトのもと、1972年に大和ハウス工業株式会社によって販売開始された戸建を中心とした住宅団地である。販売開始から50年以上が経過し、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、「買い物・交通の不便」等様々な課題が顕在化。上郷ネオポリス自治会と大和ハウス工業との連携により、コンビニ併設のコミュニティ施設「野七里テラス」、コミュニティ拠点「創テラス」を整備するとともに、持続可能なまちづくりへの取組を進めている。近年子育て世帯の転入により若年世代が増加中。

団地概要

団地名	横浜上郷ネオポリス
所在地	神奈川県横浜市
開発・入居開始時期	1972年
開発主体	民間（大和ハウス工業）
団地規模	約46ha・700区画
人口・世帯数	約2,000人・約860世帯（令和7年自治会調べ）
高齢化率	約47%（令和2年国勢調査） ※上郷ネオポリスを含む野七里1丁目、2丁目、桂台南2丁目全域
主な住宅種別	戸建（90%以上）※上郷ネオポリス自治会エリア
主な用途地域	第一種低層住居専用地域
主な交通手段	路線バス（団地中心部から最寄り駅（JR根岸線港南台駅）まで、約17分）
団地再生に関する計画（予定含む）	—



神奈川県横浜市栄区



横浜上郷ネオポリス（一般社団法人横浜上郷ネオポリス）

活動の背景や目的

開発から50年を経て、まちの高齢者率が50%を超え、大手新聞社各紙に「都市周辺の限界集落」として取り上げられたことや、買い物の不便、交通問題等、このままでは先が見えなくなったため「生涯元気で安心して暮らせる街」を目指して取組を開始。

取組概要

・コミュニティ施設の運営

▶ 日常的な居場所づくり、多世代交流のきっかけづくりを行う。

・交流イベントの企画と実施

▶ 上郷ネオポリスの文化と交流を生むイベントを企画し実施をする

・困りごと相談の受付

▶ 住民の困りごとを受け付け、解決できる企業や専門家との懸け橋になる



タウンクリエイター



コミュニティ施設ボランティア

活動団体の概要

【団体名】：一般社団法人横浜上郷ネオポリス

【設立日】：2019年

【活動内容】：

「生涯この街で暮らしたい」を実現するために、その取組を「横浜上郷ネオポリス版タウンマネジメント」と名付け、第二世代の「タウンクリエイター」による活動を推進している。

活動内容・コミュニティ施設の運営

- ・イベントの企画と実施
- ・住民の困りごと相談の受付
- ・企業からの事業受託

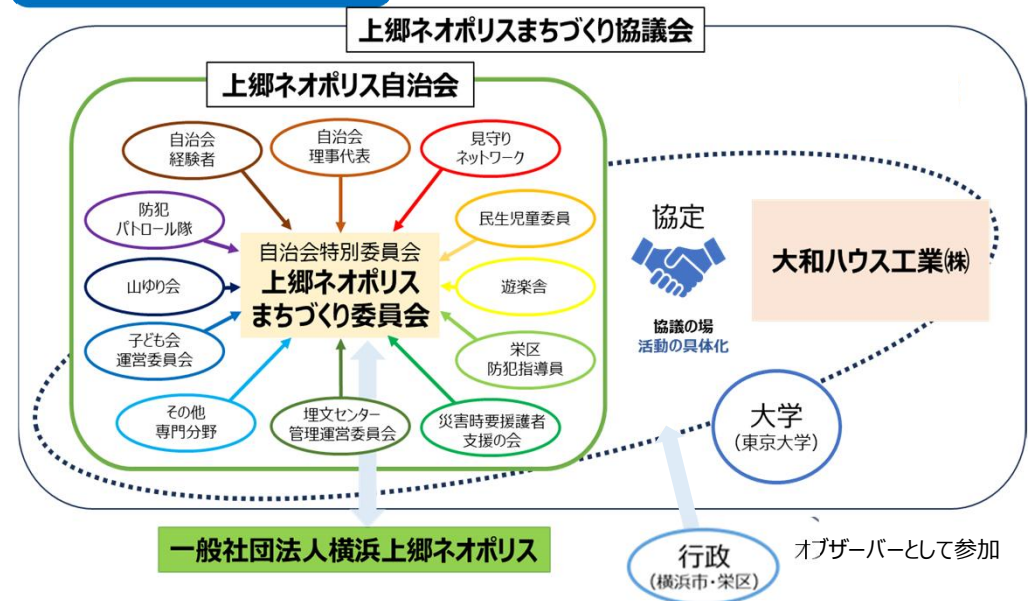


(Instagram)

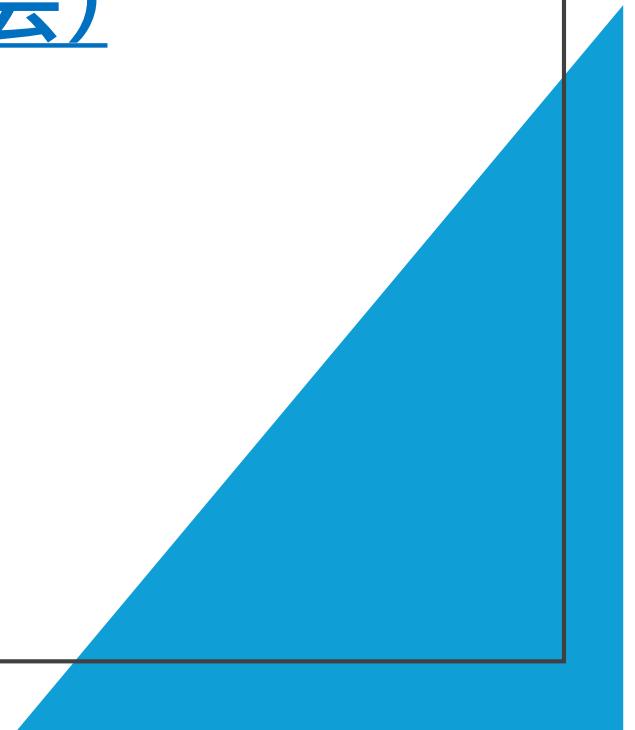
【Instagram】:URL

https://www.instagram.com/np_kamigou/?utm_source=ig_web_button_share_sheet

活動の体制



05 青葉台団地
(一般社団法人青葉台町会協議会)



青葉台団地（一般社団法人青葉台町会協議会）

青葉台団地について

千葉県市原市の北西部姉崎地区に位置する、1970年代初頭に京葉工業地帯とともに誕生した住宅団地で、海岸部のコンビナート企業や都心への通勤者が居住する市原市内のベッドタウンとなっている。2005年をピークに人口が減少し、市内でも高齢化が進行する団地の一つとなっている。1丁目～7丁目までは主に戸建て住宅、8丁目は集合住宅で構成され、8町会の会長を中心として結成された町会協議会が中心となり、団地再生に向けたまちづくり活動が進められている。

■ 団地概要

団地名	青葉台団地
所在地	千葉県市原市
開発・入居開始時期	1970年代初頭
開発主体	1～5丁目、8丁目（藤田観光・平和観光開発） 6～7丁目（千葉県住宅供給公社）
団地規模	約102ha・約3,000戸（造成当初計画）
人口・世帯数	約7,000人・3,400世帯（令和8年5月1日） ※同じ小学校区で集合住宅のダイアパレスを除く
高齢化率	町別22～55% 全体42%（令和8年5月1日）
主な住宅種別	戸建（94%）、集合住宅（6%）※戸数比
主な用途地域	第一種低層住居専用地域
主な交通手段	JR内房線・姉ヶ崎駅から小湊鐵道バスで約13分
団地再生に関する計画（予定含む）	市原市との協働のもとで地域再生推進法人化と団地再生事業の活用を検討中



青葉台団地（一般社団法人青葉台町会協議会）

活動の背景や目的

2018年、衰退していく団地をテーマにした市原市主催の「いちはらの未来を考える地域円卓会議」への参加がきっかけ。このまま何もしないと2町会分の約700世帯が空き家になると分かり、全3,200世帯に緊急アンケートを実施、アンケート結果を6分野28課題にまとめて活動を開始した。

取組概要

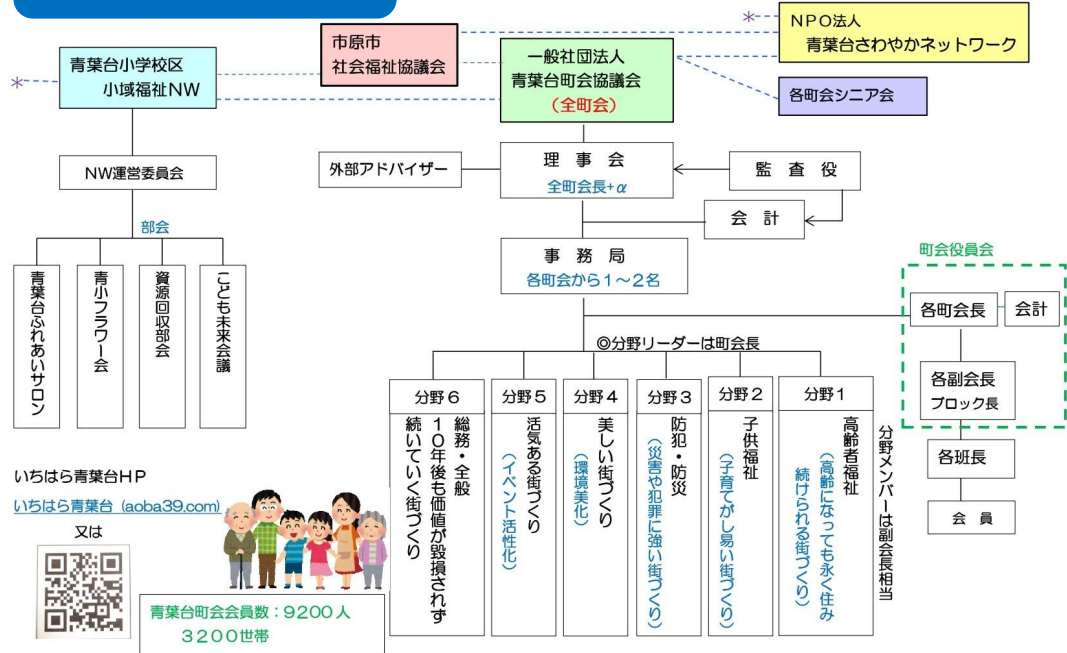
- ・分野1：訪問介護、学童保育、移送サービス、庭木剪定、家事援助、営繕、買い物ツアー、手ぶらで買い物（宅配）
- ・分野2：登校見守り隊、子どもを預けやすい場所づくり
- ・分野3：地区防災計画策定、在宅避難マニュアル作成、避難所開設訓練、消防訓練の支援、仮設給水設備の整備
- ・分野4：花壇づくりを中心としたOhanaいっぱい活動、空家の駐車場を地域の憩いの場として活用
- ・分野5：夏のお祭り「青葉台フェスタ」、冬の文化祭「冬フェス」
- ・分野6：あおば女性の会フリーマーケット、地区再生計画の検討

活動団体の概要

- 【団体名】：一般社団法人 青葉台町会協議会
 【設立日】：1991年4月1日
- ・2018年 「39プロジェクト始動」新しい価値を創造し続ける街
 - ・2021年 「内閣総理大臣賞受賞」あしたのまち・くらしづくり活動賞
 - ・2022年 「SDGs宣言団体」市原市認定
 - ・2023年 「イチ推し活動団体登録」市原市ポイント制度
「一般社団法人化」正式発足
 - ・2024年 「団地再生サミット」共同宣言（市内7住宅団地）



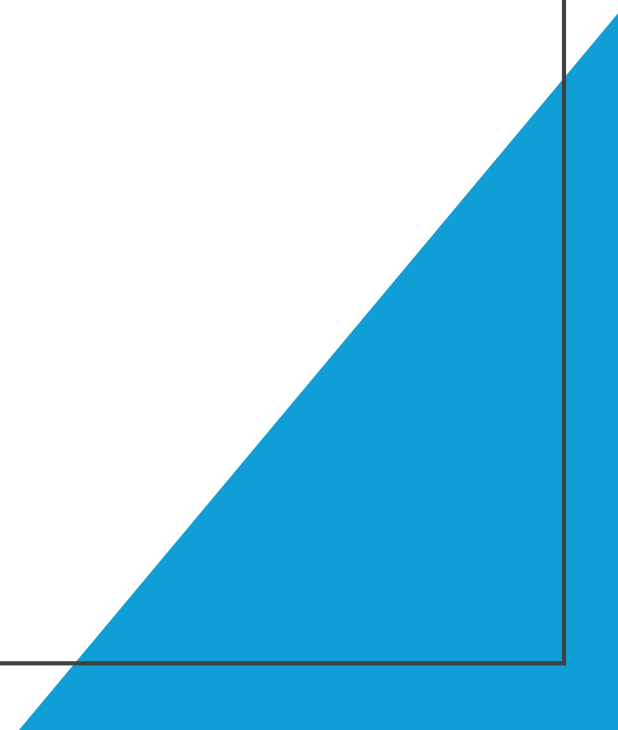
活動の体制



いちはら青葉台HP
 いちはら青葉台 (aoba39.com)
 又は

青葉台町会会員数：9200人
 3200世帯

06 高蔵寺ニュータウン (ReNEWまちつく部)



高蔵寺ニュータウン(ReNEWまちつく部)

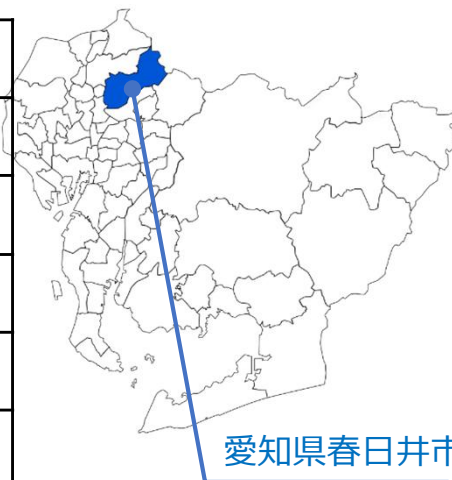
高蔵寺ニュータウンについて

愛知県春日井市東部のゆるやかな丘陵地に、都市再生機構の前身である日本住宅公団により整備されたニュータウン。日本の高度成長を支えた最初期の大規模住宅地であり、日本3大ニュータウンの一つとして数えられる。中心部に商業施設を集約したワンセンター方式が特徴であり、センター周辺に都市再生機構の賃貸・分譲集合住宅が立地し、その周辺を戸建住宅のエリアが囲み、谷筋に整備された緑豊かな幅の広い幹線道路と尾根筋に並び立つ団地の風景が独特の景観を形成している。

1968年の入居開始から60年を迎えようとする現在、他のニュータウン同様、人口減少や少子高齢化が大きな課題となっているが、旧小学校施設を活用した多世代交流拠点の整備など、まちの活性化に向けた取組が進められている。

団地概要

団地名	高蔵寺ニュータウン
所在地	愛知県春日井市
入居開始時期	1968年
開発主体	独立行政法人都市再生機構
団地規模	約702.1ha・約21,000戸
人口・世帯数	約41,240人・20,596世帯（令和8年4月時点）
高齢化率	約36.89%（令和8年4月時点）
主な住宅種別	戸建住宅（43%）、UR賃貸住宅（34%）、UR分譲住宅（集合）（12%）、民間共同住宅（8%）、その他（3%）
主な用途地域	第一種低層住居専用地域
主な交通手段	路線バス （団地中心部から最寄り駅（高蔵寺駅）まで、約10分） コミュニティバス（団地内を循環）
団地再生に関する計画（予定含む）	<ul style="list-style-type: none">高蔵寺リ・ニュータウン計画（平成28年3月策定、令和3年3月中間改定春日井市）（仮称）高蔵寺ニュータウンまちづくり新構想（市・UR・センター開発の3者が中心となって令和9年度策定予定）



愛知県春日井市



春日井市「高蔵寺ニュータウン公式サイト」
<https://www.kozoji-nt.com/>



高蔵寺ニュータウン（ReNEWまちつく部）

活動の背景や目的

「ReNEWまちつく部」は「まちの“しかけ”づくり」を合言葉に、自分たちのまちを自分たちで楽しくすることを目的に活動しています。高蔵寺ニュータウンには、多様な人や企業があります。また、このまちで育ち離れて暮らしているたくさんの方がいます。それら多くの人や企業にまちづくりに関わってもらえるよう「ReNEWまちつく部」はイベントの開催やプレイヤーの発見、次世代の人材育成、人のつながりの促進などを中心に活動しています。

取組概要

- ・「KOZOJI ランド構想」まち全体をテーマパークと見立ててブランディング
- ・「KOZOJI ランドパーティー」の開催 かつてあった夏祭りの代わりに花火の上がる「パーティー」を春か秋に開催
- ・「KOZOJI ランドサロン」の開催 メンバー内での勉強会や懇親会など
- ・「KOZOJI ランドカフェ」の開催 地域住民向けカフェ活動 賑わい創出イベント
- ・「KOZOJI ランドキャスト、ジュニアキャスト」の育成 メンバーはキャストと呼ぶ



活動団体の概要

【団体名】：ReNEWまちつく部

【設立日】：2024年10月

【活動内容】：

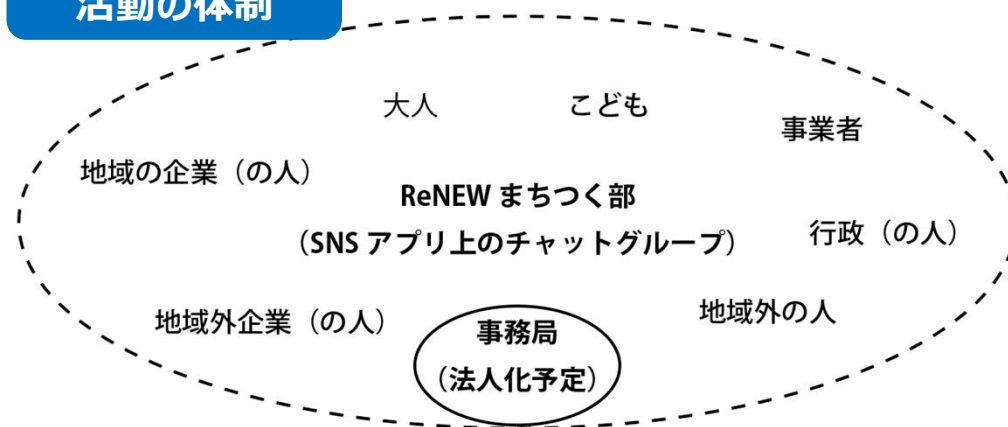
- ・まちの“しかけ”づくり
- ・人や企業がつながるための“しかけ”づくり
- ・まちを好きな人や企業が増える“しかけ”づくり
- ・“しかける”人を増やす“しかけ”づくり

【Instagram】：

https://www.instagram.com/kozoji_matitsukubu/



活動の体制



「ReNEWまちつく部」は、SNSアプリ上のチャットグループとして運営されているグループです。入会手続きや会費等を設けないことで、行政関係者や企業の広報担当者など、誰でも参加しやすく、それぞれの関わり方で参加できます。

この緩やかな繋がりを大切にしつつも、継続的に活動ができるように、事務局部分を法人化し、拠点運営や営利事業の実施、助成金の申請などのための体制を整えたいと考えています。

07 真駒内団地

((一社)真駒内エリアマネジメントコア・

NPO法人真駒内エリアマネジメントコネク)

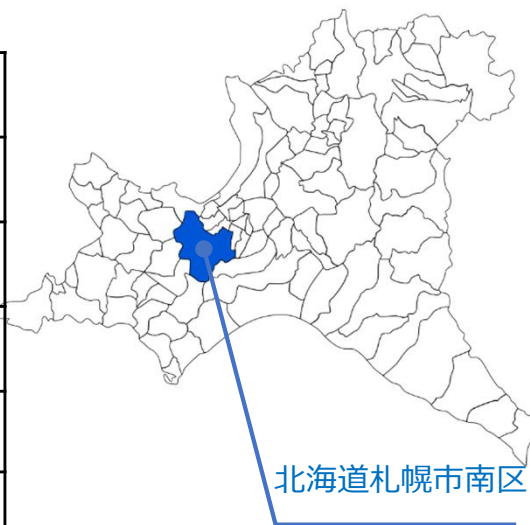
真駒内団地 ((一社) 真駒内エリアマネジメントコア・NPO法人真駒内エリアマネジメントコネク)

真駒内団地について

北海道札幌市南区の地下鉄南北線「真駒内駅」周辺に広がる大規模住宅団地。札幌市の人口急増を受け止める住宅団地として、1959年～1973年にかけて北海道により造成された。戸建住宅用地、集合住宅用地、商業・利便施設用地等が明確に区分され、道路・公園・学校等が計画的に整備されるなど、ゆとりと落ち着きのある住宅地が形成されている。入居開始から約50年以上が経過した今、少子高齢化を伴う人口減少が進行しているほか、真駒内駅前の公共施設等の老朽化が進みつつあるなど、様々な課題が顕在化している。

■団地概要

団地名	真駒内団地
所在地	北海道札幌市
開発・入居開始時期	1959年頃
開発主体	北海道
団地規模	約170ha・5000戸※造成時の計画戸数
人口・世帯数	約22,584人・10,684世帯 (令和2年国勢調査、真駒内地区)
高齢化率	約36.0% (令和2年国勢調査、真駒内地区)
主な住宅種別	戸建(60%)、公的賃貸(22%)、 民間賃貸(11%)、給与住宅等(7%)
主な用途地域	第一種低層住居専用地域 第一種中高層住居専用地域
主な交通手段	路線バス(団地中心部から最寄り駅(真駒内駅)まで、5分)
団地再生に関する計画(予定含む)	「真駒内駅前地区まちづくり計画」 (令和5年11月札幌市)



北海道札幌市南区



真駒内団地（一般社団法人駒内エリアマネジメントコア）

活動の背景や目的

2018年、真駒内あけぼの団地の高齢化に伴い、札幌市・UR都市機構・札幌市立大学で任意の研究会が立ち上がったことを契機に活動開始。市立大学だけではなく近隣の高校生も加わり、2019年より探究・実践のフィールドとして団地内の広場を活用した「あけぼのテラス」を継続開催中。2025年度に運営団体を法人化。

取組概要

高校生キッチンカー

高校生が開発した地産地消メニューを販売するキッチンカー

地元商店による屋台村

地元の飲食店が10店舗程度軒を連ね地元の「美味しい」を販売

学生ワークショップ・パフォーマンス

近隣の学生が体験型のまちづくりワークショップを開催したり、YOSAKOIを演舞し、団地内及び周辺の高齢者・子どもを楽しませる。



活動団体の概要

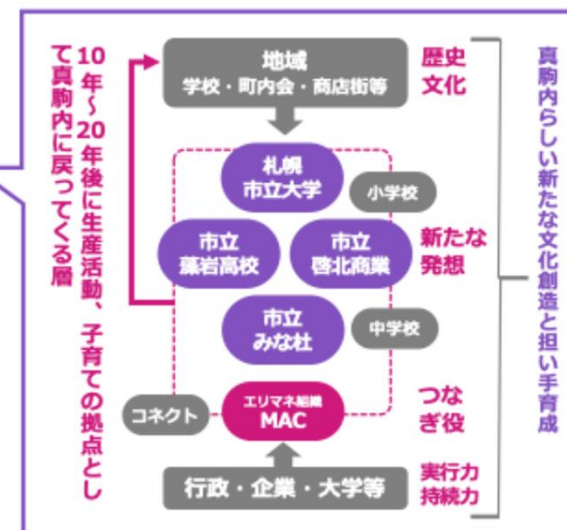
【団体名】：一般社団法人真駒内エリアマネジメントコア

【設立日】：2025年7月

【活動内容】：

- ・札幌市立高校生・市内大学生の探究活動支援
- ・会員企業に向けた勉強会
- ・エリアビジョンの検討
- ・公民連携によるプレイスメイキング実証実験
- ・実証実験に関わる行政協議
- ・実証実験の効果計測

活動の体制



真駒内団地（NPO法人真駒内エリアマネジメントコネクト）

活動の背景や目的

真駒内団地では、少子高齢化や人口減少、地域コミュニティの希薄化が進んでいる。一方で、豊かな自然環境や成熟した住宅地としての魅力を持っている。地域住民、学生、民間事業者、行政等が連携し、交流・活動・挑戦が生まれる地域づくりを進めることで、持続可能な団地再生と地域活性化を目指している。

取組概要

- ・地域交流イベントの開催（2024年度駅前広場にて屋台村、キッチンカー試行）
- ・空きスペース活用の検討（同上）
- ・ラベンダー等の景観づくり活動（2025年度より路上植樹マスを活用し実施）
- ・若者・学生との連携プロジェクト（2024年度より）
- ・地域情報発信とコミュニティ形成（2024年度より）
- ・エリアマネジメント組織の立ち上げ（2024年度より開始、2026年3月NPO化）

※NPOより以前はマコエキ会として活動

ウォーカブル実証実験（2024年）マコエキ会

真駒内駅前
バザー



活動団体の概要

【団体名】：特定非営利活動法人真駒内エリアマネジメントコネクト

【設立日】：2026年3月

【活動内容】：

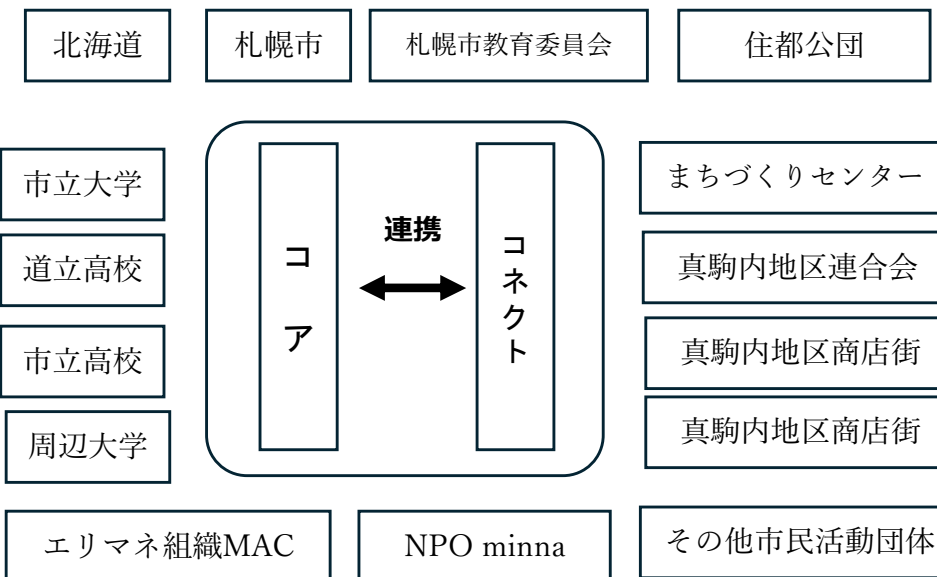
- ・地域活性化事業
- ・景観形成・環境美化活動
- ・交流イベント企画運営
- ・地域情報発信



団体HP

【HP】：<http://makomanai-connect.themedia.jp>

活動の体制



08 緑園都市住宅地
(NPO法人緑園都市コミュニティ協会)

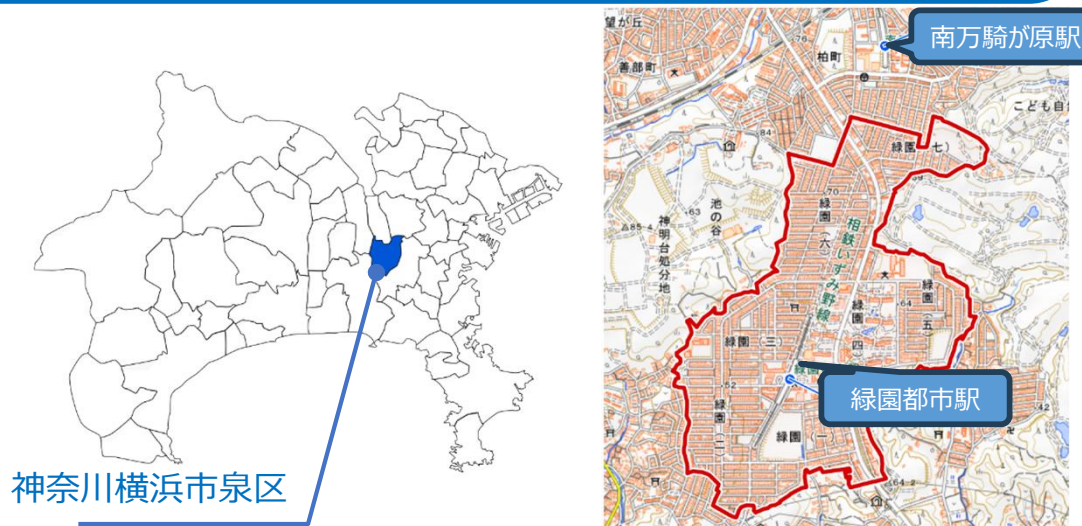
緑園都市住宅地（NPO法人緑園都市コミュニティ協会）

緑園都市住宅地について

横浜市西部に位置する、相鉄いずみ野線沿線で最大の開発規模を誇る住宅地。「人間性を追及した豊かな街づくり」をテーマに、公益用地の整備や、幹線道路・補助幹線道路における電線類の地中化、歩行者専用道路への絵タイルの設置や四季をテーマにした植栽など、快適さと利便性が両立された、誰もが暮らしたくなる住環境の実現に向けたまちづくりが進められた。米国のラドバーン住宅地をモデルとして、1987年の分譲開始と同時に、地域住民を会員、相模鉄道を特別会員として、快適で安全な居住環境の確保と住民相互の社会的・経済的地位等の向上・促進を図ることを目的とした「緑園都市コミュニティ協会(RCA)」が発足。

団地概要

団地名	緑園地区
所在地	神奈川県横浜市
開発・入居開始時期	1974年～1986年（中川第一土地区画整理事業）
開発主体	民間（相模鉄道株式会社）
団地規模	122ha・計画戸数4,738戸、人口18,000人
人口・世帯数	約13492人・5701世帯（令和2年国勢調査）
高齢化率	約28.2%（令和2年国勢調査） 約34.3%（令和7年9月30日、住基台帳）
主な住宅種別	戸建（43%）、公的賃貸（0%）、 民間賃貸（21%）、共同分譲（33%）
主な用途地域	第一種低層住居専用地域
主な交通手段	団地中心部に相模鉄道いずみ野線：緑園都市駅。北部は同：南万騎が原駅徒歩圏
団地再生に関する計画（予定含む）	-



緑園都市住宅地（NPO法人緑園都市コミュニティ協会）

活動の背景や目的

高齢化の進行や住宅更新期の到来、地域資産の維持管理等の課題を踏まえ、2024年にNPO法人化し、住環境マネジメントや地域資源の保全・活用を通じた住宅団地再生に取り組んでいる。

取組概要

① 緑化推進・景観づくり

花の頒布会や遊歩道“四季の径”の維持管理、花壇整備、街づくりガイドラインなどを通じて、地域の緑化と美しい街なみづくりを進めている。

② 街づくりを通じた地域交流・次世代育成

フェリス女学院大学や横浜市立大学とのワークショップ・緑園学園での街づくりレクチャーや緑化体験を通じ、地域交流と次世代育成に取り組んでいる。



活動団体の概要

【団体名】：緑園都市コミュニティ協会（RCA）

【設立日】：1987年4月 設立、2024年4月 NPO化

【活動内容】：

緑化推進・景観づくり：花の頒布会や四季の径の維持管理を通じて、緑豊かで美しい街なみづくりを進めている。

街づくり・地域交流：イベントや地域活動を通じて、住民交流を進め、街づくりガイドラインを通じ景観維持に努めている。

安全安心の確保等：防犯カメラの維持管理等、クラブハウスの地域開放、運営を行っている。

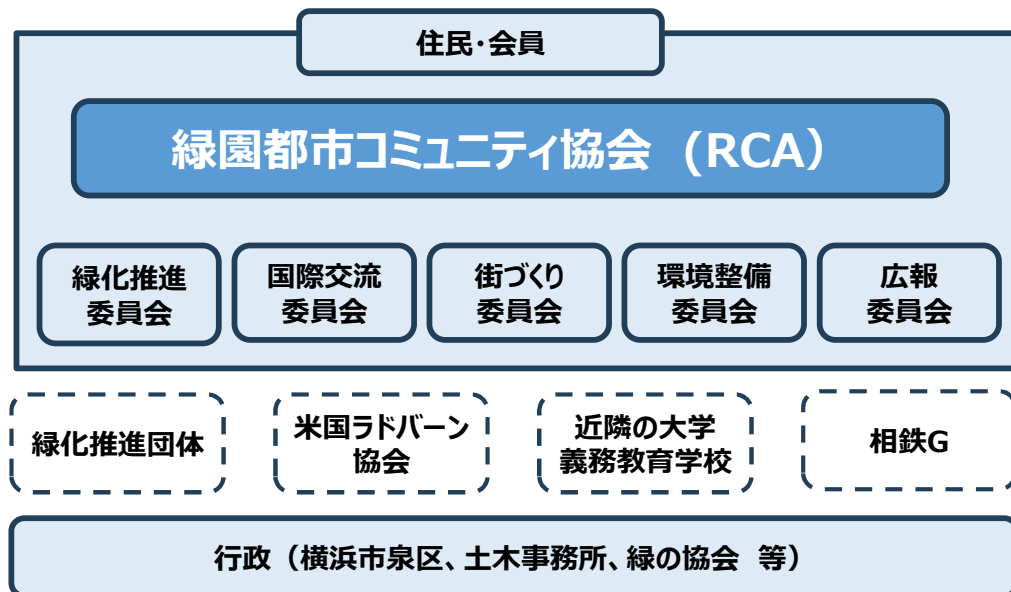
大学連携・国際交流：大学、義務教育学校やラドバーンとの交流を通じて、次世代育成と地域の魅力発信を進めている。

【HP】：<https://rca-yokohama.org/>

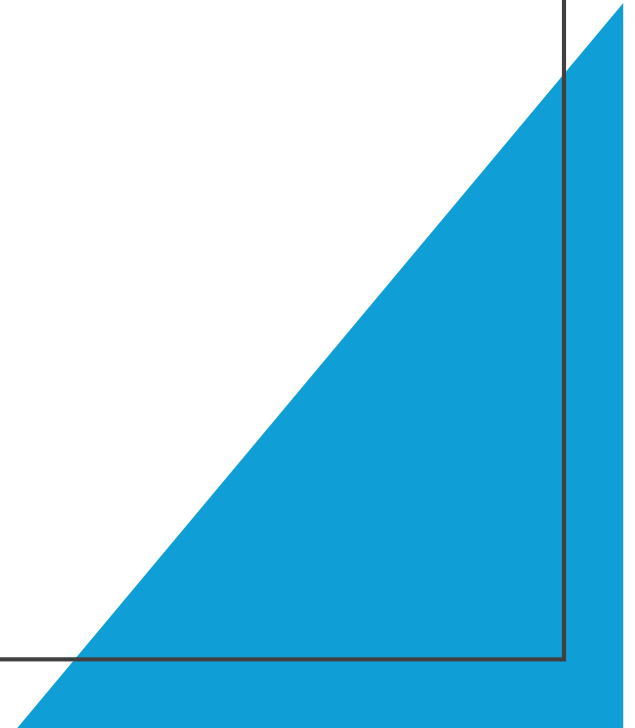


団体HP

活動の体制



09 スカイレールタウンみどり坂
(みどり坂町内会)



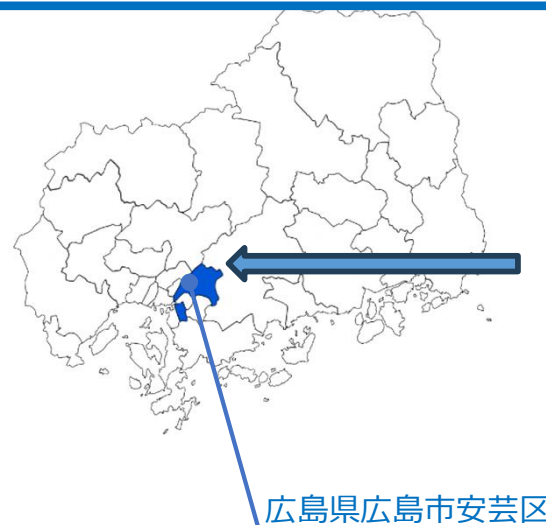
スカイレールタウンみどり坂（みどり坂町内会）

スカイレールタウンみどり坂について

広島県広島市安芸区のJR瀬野駅北側山間部に大規模開発された高地住宅団地。団地開発に合わせて、JR瀬野駅から宅地まで標高約200メートル差の急勾配を繋ぐ、国内唯一の交通システム「スカイレール」を建設。スカイレールは、1998年に住民の歩行を支援するため団地の地形に合わせた新しい交通手段として導入されたが、慢性的な赤字や部品調達が困難であることから、2024年4月に運行が終了し、変わりの交通手段としてみどり坂タウンバス（EVバス）が運行開始した。高齢化率は高くないものの、団地特有の少子化が進んでおり、団地内のコミュニケーションの希薄化も課題となっている。

■ 団地概要

団地名	スカイレールタウンみどり坂
所在地	広島県広島市安芸区瀬野西
開発・入居開始時期	1997年
開発主体	積水ハウス、青木あすなる建設
団地規模	約121ha・約・2563戸
人口・世帯数	6,980人・2,260世帯（令和8年3月時点） ※みどり坂学区
高齢化率	約7%（令和6年3月時点）
主な住宅種別	戸建（88%）、民間賃貸（10%）
主な用途地域	第一種低層住居専用地域
主な交通手段	路線バス （団地中心部から最寄り駅（瀬野駅）まで、約10分）
団地再生に関する計画 （予定含む）	—



スカイレー爾タウンみどり坂（みどり坂町内会）

活動の背景や目的

みどり坂団地は各住宅が広い敷地面積を有し、高度なプライバシー保護を目的とした住宅団地の設計となっており、分譲時から若い世代の人気の高い団地でした。しかし近年その弊害が顕著化して来ました。関心を高めるために地域情報の発信に力をいれ、SNSやHPを活用した情報発信を継続的かつ積極的に行うことで、様々な取組を「自分ごと」として捉えてもらうことを促しています。その結果として、住宅団地再生推進モデル事業を活用し作成したコミュニティアプリ『まちなね』も1ヶ月で1,500人の登録を得るなど、取組の成果が数値としても表れています。

取組概要

住民の関心を集め、若者が参加する取組として小学校では『みどり坂の未来を考える』をテーマに提案を出してもらい、その中から実現可能な事業を実施。（稲作体験、駄菓子屋、花壇づくり等）さらに、収穫したお米で子ども食堂を行い、高齢者の方と子どもたちが一緒に食事をしたり、ワークショップで門松づくりやしめ飾りづくりの指導を受けたりといった活動をおこなっています。そして、そのお返しとして敬老会のプレゼントを子どもたちが作成するなど、世代を超えた交流が生まれ、好循環の仕組みも出来ています。中学校では夏祭りに出店体験・木曜カフェの一日店長を体験、SNS被害防止ビデオを作成し小学校に提案など積極的に参加する継続的仕組みが出来ています。



活動団体の概要

【団体名】：みどり坂町内会

【設立日】：2011年

【活動内容】：伝統行事の継承、安全、防災、きれいな街づくり等

- ・夏祭り、神輿、とんど、鬼訪問
- ・ひろしまエルモみどり坂pili.comでの12事業実施
- ・防災キャンプ、防犯カメラ7カ所、公園清掃
- ・高齢者対象の元気セミナー
- ・100歳体操、うたごえフラ実施



町内会HP

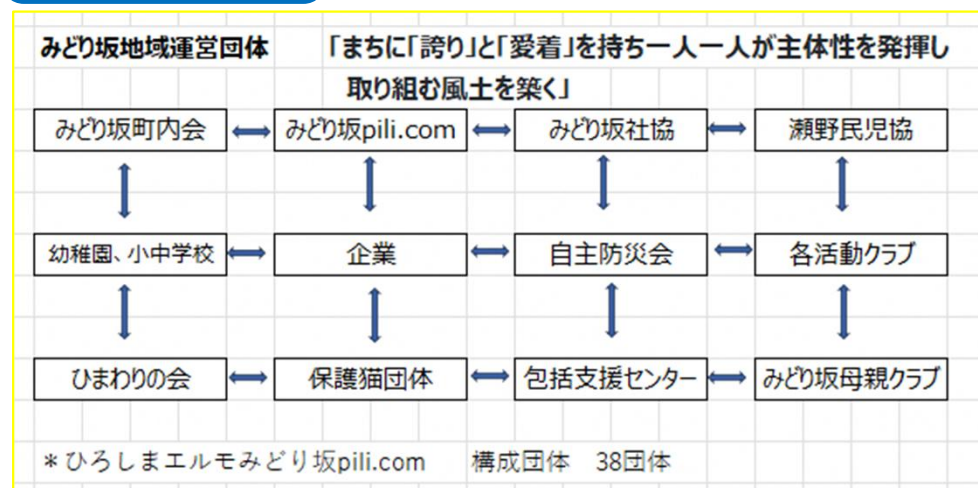


pili.com
掲示板

【町内会HP】：<https://www.com-net2.city.hiroshima.jp/midorizaka/>

【pili.com掲示板】：<https://www.com-net2.city.hiroshima.jp/lmomidorizakapilicom/>

活動の体制



みどり坂地域コミュニティアプリ『まちのね』

国土交通省
「住宅団地再生推進モデル事業」

回覧板を、 スマートフォンでも。

回覧板・お知らせ・防災情報をまとめて配信できる地域アプリ

簡単操作で
誰でも使える



地域コミュニティアプリ
まちのね

町内会の情報を、もっと早く、もっと確実に。
「まちのね」は、地域のつながりをやさしく支える
新しい情報共有の仕組みです。



こんな悩みありませんか？



回覧板を回すのが大変



若い世代に届きにくい



印刷・配布のコストと
手間を減らしたい



地域活動をもっと
知って欲しい



災害時に情報共有できる
場が欲しい



個人の連絡先を
共有したくない

— 主な機能 —



お知らせ配信 (電子回覧板)



町内会の行事や
お知らせを一斉配信
重要な情報を
どこからでも
確認できます。



防災情報掲示板



災害時の緊急情報や
避難情報をすぐに
住民同士で共有
地域の安心・安全を
支えます。



コミュニティチャット



グループや係ごとの
連絡を個人の連絡先
に依存せず安全に行
えます。



安心のサポート体制

導入後も専用のサポート窓口にて、住民の方からの
お問い合わせにも対応いたします。
地域のご負担を軽減し、安心して運用いただける
体制を整えていきます。



専用サポート窓口
で対応



住民からの問い
合わせもサポート



導入後も安心の
フォロー体制